文部科学省指定　研究開発学校としての取り組み

《研究の概要》

本校は、文部科学省の指定を受け、令和７年度より研究開発校として先進的な教育実践の研究・開発に取り組んでいます。

本校では、学校教育目標である「自ら考える子」「やり抜く子」「問題を発見する子」「共に高め合う子」の育成を目指す中で、児童の多様化する実態に応じた学びの質の向上が課題となっています。児童の実態を整理した結果、これからの時代を生き抜くために「①学びに向かう力」「②課題発見力」「③確かな知識・技能」の３つを一体的に育むことが必要であると考えました。

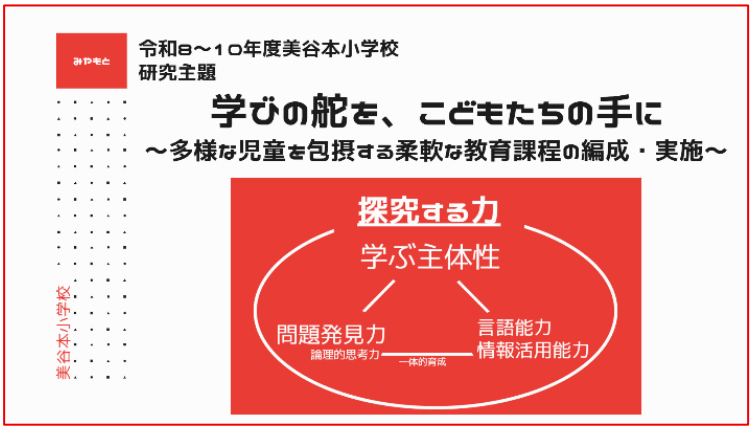
これらを踏まえ、本校では以下の研究主題を掲げ、全校を挙げて教育改革を進めています。

【研究主題】

「学びの舵を、こどもたちの手に　～多様な児童を包摂する柔軟な教育課程の編成・実施～」

子どもたち一人一人が自らの学びの主体（舵取り手）となり、互いを認め合いながら主体的に探究し、学びを深めていけるよう、教育課程の柔軟化と授業づくりの構造化を図っています。





なお、日々の取り組みは Facebook にも投稿しています。併せてそちらもチェックしていただけたら幸いです。

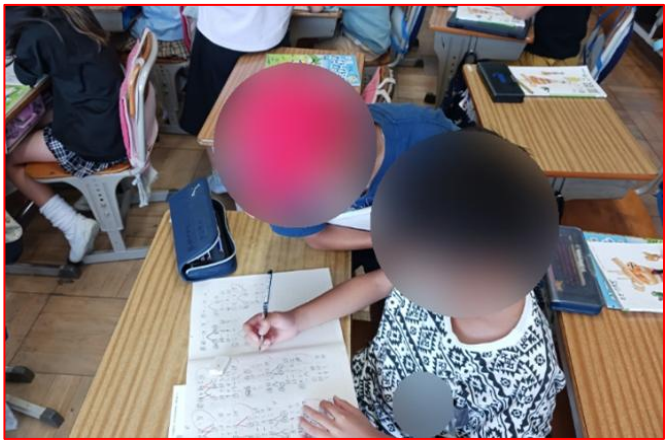
《具体的な取組①：教育課程の編成（「みやもとタイム」の創設と活用）》

本校では、教育課程の柔軟化を図るため、授業時間を４０分とし、生じた時間を活用して新たな「裁量的な時間＝みやもとタイム」を生み出しました。週３回・各２５分間設定されているこの「みやもとタイム」は、普段の授業やけやきの時間で行う探究活動を支える「素地づくりの場」といて機能しています。

以下、活用例になります。

みやもとタイムの取り組み①：
基礎・基本の定着と情報活用能力の育成

学習事項の確かな定着を図るとともに、タブレット端末を活用した調べる力、情報を整理分析し表現する力を身につけます。



みやもとタイムの取り組み②：
興味・関心の裾野を広げる発展学習

自発的な問いや自分なりのアプローチを大切にし、発展学習や体験活動などを通して視野を広げます。



みやもとタイムの取り組み③：
協働する力を育む異学年交流・表現活動

たてわり活動や昼鑑賞などを通して、他者の意見を尊重し受け入れる寛容性や対話の力を育みます。



みやもとタイムの取り組み④：
探究時間の拡充（６５分間の探究活動）



「みやもとタイム」を第６校時と連続させることで、合計６５分のまとまった学習時間を確保します。これにより、PBL（課題解決型学習）や総合的な学習の時間における効果的な探究活動を実現しています。

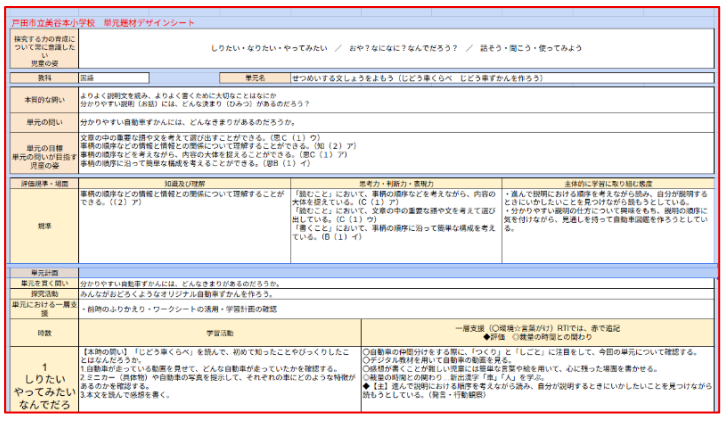
あわせて、月曜日に教職員の研修枠（ロング枠）を確保し、データに基づく児童理解や支援策、授業づくりの協議を組織的に進めています。

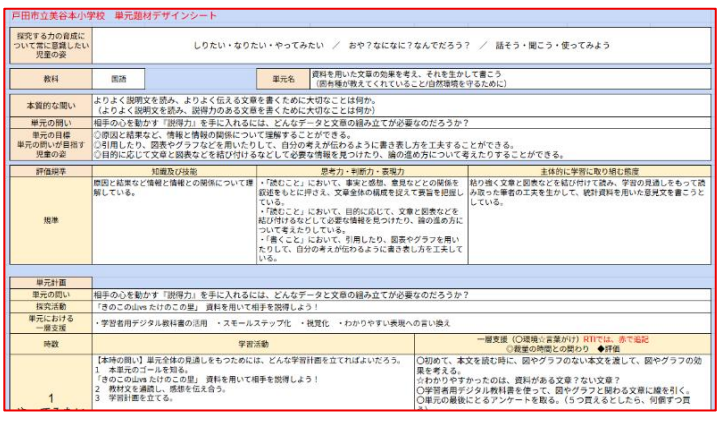
《具体的な取組②：単元ベースの授業づくり》

児童の「ゆるくて深い学び」を実現するため、単元や題材全体を見通した授業づくりを進めています。単に知識を暗記するにとどまらず、知識・技能の統合的な理解と思考力・判断力・表現力等を一体的に発揮できる学びを目指します。

○「単元デザインシート」を活用した授業構想

教科において「単元デザインシート」を作成し、単元全体を貫く「本質的な問い」や「単元の問い」、具体的な「探究活動」をあらかじめ設定しています。 本単元で身に付けさせたい資質・能力の獲得に向け、一貫したぶれない指導を意識して行っています。また、一部の授業は先生同士で見合い、そこで出た意見を次の単元に生かせるようにしています。


戸田市立美谷本小学校　単元題材デザインシート


戸田市立美谷本小学校　単元題材デザインシート

《具体的な取組３：多層的な支援を取り入れた授業づくり》

多様な背景や学びのニーズをもつ全ての児童を誰一人取り残さず、安心して学びに向かえるよう、多層型支援システムを授業の中に組み込んでいます。

○ 質の高い全員支援から個に応じた手立てまで

すべての授業においてユニバーサルデザインの視点を取り入れています。学習者用デジタル教科書の活用、学習課題のスモールステップ化、視覚化、わかりやすい表現への言い換えなどを徹底し、一人一人が自分で学びに向かいながら、「分かる・できる」を獲得していく授業をつくります。さらに、学びを進めたい・深めたいという児童への個別の手立ても併せて考えています。

○ データと対話に基づく授業改善「RTI ミーティング」と「学び WEEK」

授業の成果を検証・改善するために、定期的に「RTI ミーティング」を実施しています。 単元テストなどの定量データだけでなく、児童の振り返りや学習の様子といった定性データを集めて教職員で分析・検証を行い、次の一手となる効果的な支援策を協議します。

さらに、年 4 回の授業検討および「学び WEEK（全教職員による相互授業公開）」を設定し、「効果検証 → 支援策の検討 → 実施 → 個・全体のスキルアップ」のループ（ミヤモトループ）を回すことで、学校全体で指導力・支援力の向上に取り組んでいます。



